

# 大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 37 週 (9 月 11 日～9 月 17 日)

## 今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 乳幼児に特に注意 咳エチケット 手洗いの励行を

### 定点把握感染症

「RSウイルス感染症 今後も注意を」

第 37 週は前週とほぼ変わらず、2,384 例の報告があった。報告の第 1 位は RS ウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、ヘルパンギーナの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.7、3.4、1.5、1.2、0.5 である。

RS ウイルス感染症は前週比 2%増の 746 例で、南河内 6.3、大阪市西部 5.2、大阪市北部 4.8 であった。流行状態は継続している。2 歳までの報告数が 651 例 (87%) と大半を占めている。例年は秋頃から増加が始まるため、今後も注意が必要である。

感染性胃腸炎は前週比 9%増の 683 例で、中河内・南河内 5.3、泉州 4.1、北河内 3.7 の順である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比 4%減の 308 例で、中河内 2.2、豊能 2.1、大阪市南部 1.7 の順となっている。

手足口病は前週比 15%減の 232 例で、南河内 2.7、大阪市西部 1.5、大阪市南部・堺市 1.4 の順であった。

ヘルパンギーナは 14%減の 106 例で、北河内 1.3、大阪市北部 1.1、大阪市西部 0.7 の順であった。

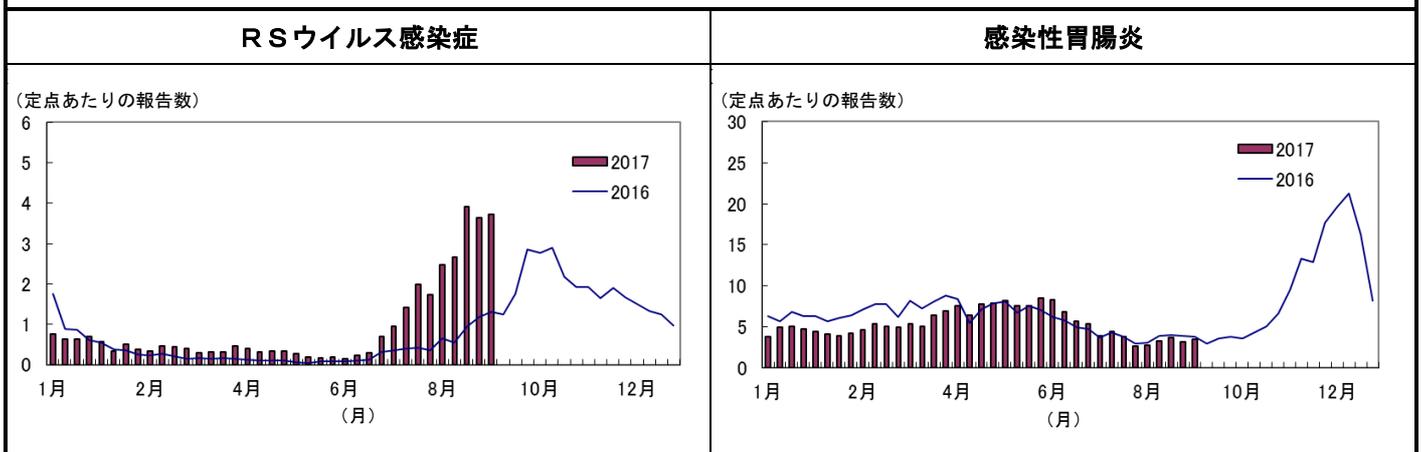


表 1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29) 年 第 37 週 9 月 11 日～9 月 17 日)

第 37 週 の順位	第 36 週 の順位	感染症	2017 年 第 37 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 37 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 37 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	RS ウイルス感染症	3.7	2%増	1.2	1 歳_39%
2	2	感染性胃腸炎	3.4	9%増	3.4	1 歳_15%
3	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.5	4%減	1.9	4 歳_16%
4	4	手足口病	1.2	15%減	0.3	1 歳_36%
5	5	ヘルパンギーナ	0.5	14%減	0.5	1 歳_36%

## 第 37 週のコメント

～ 梅毒 ～ 2017 年の全国・大阪府の梅毒感染者は、1999 年以降、同時期としては最も多く報告されています

### 全数把握感染症

#### 梅毒

全国・大阪府の梅毒の感染者は、2010 年より増加傾向にあり、2017 年は 2016 年を上回る勢いで報告されている。感染症法が施行された 1999 年以降、同時期としては最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗生物質の服用で治癒が期待できる。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

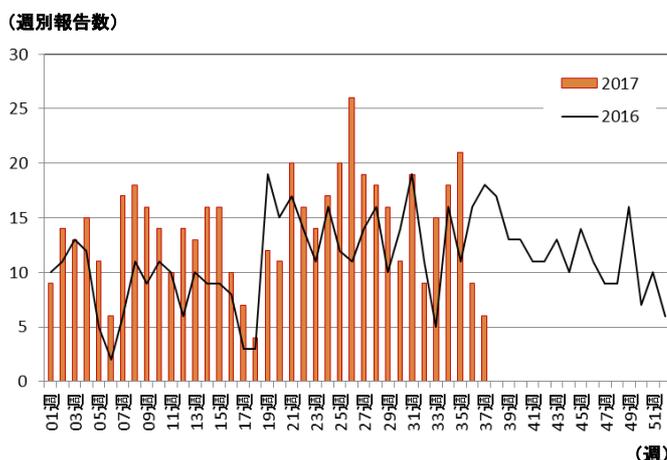


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 37 週 9 月 11 日～9 月 17 日)

\* ) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 3名 (北河内ブロック 2名、中河内ブロック 1名、 府内累積報告数 127名)
4類感染症	日本紅斑熱 1名 (豊能ブロック 1名、府内累積報告数 5名)
5類感染症 (麻疹、風しんは除く)	急性脳炎 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 32名) クロイツフェルト・ヤコブ病 1名 (三島ブロック 1名、府内累積報告数 7名) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名 (南河内ブロック 1名、府内累積報告数 15名) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (泉州ブロック 1名、府内累積報告数 187名) 梅毒 6名 (豊能ブロック 1名、三島ブロック 1名、中河内ブロック 1名、 大阪市 3名、府内累積報告数 524名)
結核 (2017年7月分)	結核 新登録患者数:183名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 86名) (府内累積報告数 1127名、内 肺・喀痰塗抹陽性 470名)
麻疹、風しん	報告はありません

(2017年9月19日 集計分)